

兵庫県保険医協会北阪神支部

ー第25回支部総会記念講演ー

入場無料

ワクチン行政の現状と課題

ー米国の予防接種制度から学ぶことー



講師 国立成育医療センター 第一線門診療部 感染症科医長
カルフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 小児感染症科助教授 (併任)
東邦大学医学部医学科 客員教授 (併任)

齋藤 昭彦 先生

日時 10月2日(土) 15:00 ~ 17:00

会場 伊丹市立商工プラザ6F マルチメディアホール
(伊丹市宮ノ前2-2-2 阪急・JR伊丹駅から徒歩約8分)

懇親会 17:30 ~ (於. 長寿蔵)

予防接種は、ワクチンで予防できる疾患 (VPD: Vaccine Preventable Diseases) から子どもたちを守るために最も有効な手段である。米国では、予防接種を国策と位置づけ、様々な政策、活動を通して、子どもたちを VPD から守るために努力を行ってきた。

日本の予防接種制度は、インフルエンザ菌b型(ヒブ)に対するワクチンの導入の遅れに代表されるように、世界保健機構 (WHO) が全ての子どもたちに接種されるべきワクチンのリストに上がっている9つのワクチンのうち、その4つが定期接種、4つが任意接種、1つは、未承認である。ヒブワクチン、小児用結合型肺炎球菌ワクチン接種は、重症の細菌感染症を予防する効果は絶大であり、接種率の向上が望まれるワクチンであるが、任意接種であるがためにその費用が高価で、接種率は未だ低い。他の任意接種のワクチンも同様である。接種率を上げるためにも、まずは、現在任意接種として規定されているワクチンの定期接種への移行が重要であると考える。接種率向上によって得られる医療費の削減により、費用対効果も期待できる。それ以外にも、同時接種の是非、筋注に対する抵抗感、副反応に対する過剰な反応、ワクチンに関する市民への教育、ワクチン政策の決定機関の欠如など、諸外国のワクチン制度と比較して、課題は山積みである。

日本の子どもたちが、他の先進国並みに VPD から守られるためには、その根本を規定している1) 予防接種制度の抜本的改革、2) 国民への継続的教育、3) 予防接種政策を決定する機関の設立が急務と考える(齋藤記)

(切り取らずに返信ください)

【FAX要返信】078-393-1802

*□にレ印を入れてお返事をお願いします。

○北阪神支部総会議事

(14:20 ~ 14:50・4F会議・研修室B)

□出席

□欠席 (議事の一切を議長に委任します)

地区_____

御氏名_____

○記念講演 (15:00 ~ 17:00)

□出席 □欠席

○懇親会 (17時30分~)

□出席 □欠席

医療機関名_____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2010年 8月 25 日号 No.205

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
(078)393-1801 FAX(078)393-1802
<http://www.hhk.jp/>

経営対策研究会

信頼関係築く就業規則を



「規律ある職場は患者さんも満足」と桂氏

北阪神支部は7月31日、いたみホールで桂労務社会保険総合事務所の桂好志郎氏を講師に経営対策研究会「医院に活力 就業規則のつくり方」を開催。22医療機関から25人が参加した。

講師は、労働紛争解決のため導入された「労働審判制度」で09年度の申し立て件数が過去最高の3,468件に上ったニュースに触れ、「パートや派遣労働の増加により、医療機関でも様々な雇用形

態の職員が一緒に働くことが普通になった。人間関係が希薄化し、信頼関係を築くことが困難になっているとの認識を示し、「このような状況下で医院の就業規則が不十分だったため、従業員の解雇などでトラブルが多発している。個々の役割やルールが全職員の共通認識になっていないと、ますます院長と職員、職員同士の関係がギクシャクする。今こそ的確な就業規則整備が求められている」とした。

また、講師は就業規則の作成・運営のポイントとして①誰が読んでもわかりやすい明確な規定、②職員に対して期待する内容と守ってもらいたい具体的な事項を明記、③院長が納得、理解して適応する、④常時10人以上の労働者を使用している事業場では必ず作成し、労基署に届出義務があるなどを指摘。「職員に対して、医院で就業する上で守らなければならない規律を具体的に明示することにより、安心して働くことができる職場環境をつくることができる。また、医院にとっても職場秩序が保たれ、仕事をより効率的に行うことができるなど、その効果は非常に大きい」と労使双方に大きなメリットがあることを強調。作成事例として、所定労働時間の設定、月例給与の体系、採用管理、年次有給休暇の運用などを紹介した。

(2面につづく)

(1面からつづく)

最後に講師は「現在の雇用の現場は、職員の生活を経済的に支えるだけでなく、職員が能力を発揮して“自己実現”をはかる場になっている。経営環境は厳しくなっているが、職員に対してはいろんな方法で『仕事の面白さ』『楽しさ』を語り、実感してもらうことが大切」と訴えた。

参加者からは「職員の交通費精算について現在自己申告のものを就業規則で再整備中。参考になった」「有給休暇や賞与についてもっと勉強する必要があると思った」などの感想が出された。

『核兵器のない世界』目指して

平和行進で小泉勇先生が激励あいさつ



「『抑止力論』はまやかし」と小泉先生

「核兵器のない平和で公正な世界を!!!」
ー。人類共通のこの願いを実現するために広島で開催された「2010原水爆禁止世界大会」を目指して今年も平和行進が行われた。

7月8日に伊丹市役所前に到着した一行は伊丹原水協の出迎えを受け、同会会長の小泉勇先生(支部幹事/伊丹市)があいさつに立った。小泉先生は「今年のNPT再検討会議において、唯一の被爆国である日本政府が重要な役割を果たせなかつた背景には、アメリカの核の傘で守られていることや核抑止力論がある。『アメリカの核や沖縄の自衛隊は抑止力』との日本政府の考えを正していくかなくてはならない」と訴えた。

健康情報テレホンサービス



<9月のテーマ>

通話料無料 (0120) 979-451

月曜日 頸の異常と全身との関わり(前編)

火曜日 頸の異常と全身との関わり(後編)

水曜日 骨も鍛えれば丈夫になる

木曜日 頭を打った時

金土日 うおの目とたこ

※テレホンサービスは、協会ホームページでもご覧いただけます。既放送分も掲載しています。

<http://www.hhk.jp/>

宝塚社保協 第6回定期総会のご案内

参加無料

社会保障の再構築

ー参院選の結果からー



講師 金沢大学人間社会学域地域創造学類教授

横山 壽一先生

日時 9月28日(火) 18:30 ~ 20:45

(学習講演は~20時20分。その後総会議事)

会場 宝塚市立西公民館(図書館) 2F セミナー室

(宝塚市小林2丁目7-30 阪急小林駅から徒歩約3分 下図参照)

7月11日の参議院選挙で、民主党は議席を減らし、与党は参議院で過半数割れに追い込まれました。これは菅直人首相の消費税増税発言をはじめ、政権交代後の後期高齢者医療制度の廃止先送り、診療報酬実質ゼロ改定など相次ぐ公約違反が国民からの批判を受けた格好です。

しかし選挙後、厚生労働省がだした新高齢者医療制度中間(案)は『年齢区分』形だけ解消(7.24付毎日新聞)といわれるよう医療費抑制の枠組みはそのままに、現行制度の根本問題を残すものです。本定期総会では、今後の社会保障の動向を正確につかみ、これ以上の後退を許さず、攻勢的な取り組みを続けていくため、社会保障の専門家で金沢大教授の横山先生をお呼びして学習講演を行います。

菅政権は選挙敗北後も社会保障財源を口実とした消費税増税の姿勢を崩していません。「安心して暮らしたい」という私たちの願いを実現させるためにも、この現状をどう切り開くのか、みんなで学び、ともに考えましょう。ふるってご参加ください。

横山 壽一(よこやま としかず)先生ご紹介

1951年生まれ/鳥取県鳥取市出身/立命館大学大学院博士課程単位取得
金沢大学人間社会学域地域創造学類教授/日本医療経済学会会長/国民医療研究所所長
『社会保障の市場化・営利化』(単著、新日本出版社)、『社会保障の再構築』(単著、新日本出版社)他

お問い合わせは、TEL: 0798-57-3137 宝塚医療生協内 社会保障をよくする宝塚の会まで

